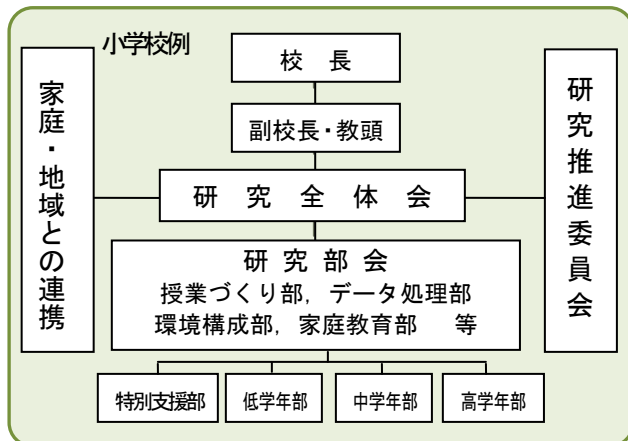


校内研究に役立つ資料

◇ 研究組織(例)



◇ 授業整理会の進め方(例)

- 1 進め方の説明
- 2 授業者の自評
 - ① ねらい達成の判断
 - ② 判断した根拠
 - ③ 不十分ととらえた原因
児童生徒観・教材観・方法観から
 - ④ 改善点の方向
- 3 確認・質問
- 4 報告・意見
- 5 指導・助言



◇ 研究紀要の基本的な項立て

- I 研究の基本的な考え方
 - 1 主題について
 - (1) 主題設定の理由
 - (2) 主題及び副主題の意味
 - 2 研究の目標
 - 3 研究の仮説
 - 4 研究の構想
(内容、過程、手だて等)
 - 5 研究構想図
- II 研究の実際
 - 1 実践例
 - 2 分析と考察
- III 研究の成果と課題
 - 1 研究の成果
 - 2 研究の課題
- IV 資料等

◇ 研究結果の整理について

子どもの考えや行動等の変容は、質的・量的な面からとらえます。

- 質的変容…子どもの発言、記述、作品等の具体物や、行動の観察結果等から見える質的な変容
- 量的変容…授業実践を通して、全体の子どもがどのような変容をしたか、事前・事中・事後の比較から見える数量的な変容

考察では、子どもの変容と絡めて指導法の有効性について述べます。

述べ方の手順としては、

- 強調したい学習活動と、連動して子どもの変容の姿
- (必要であれば)子どもの反応や高まりを分析・整理したデータ等での補完
- 強調したい指導法の有効性の有無
- (問題点があれば)問題点とその改善点 等

が考えられます。

◇ 成果と課題について

成果について

- ・仮説を踏まえ、子どもの変容・高まりに基づいて、研究の構想の視点(内容、過程、手だて等)からまとめます。

課題について

- ・研究内容の不十分な点、研究の発展性、未開拓、未着手部分等からまとめます。

◇ 授業記録用紙(例)

授業分析記録 (対象者) [分析者 先生]

学習活動 (手だて等も含む)	記録 (子どもの発言、活動の様子、ノートの内容等)
(1) ~の活動を行う。 ・こんな発問を行う。 ・こんな資料を提示する。等	分析細目 1 ~させたことは ~させるのに有効であったか。 ・子どもに ~を質問してください。 ・ ~の視点から子どもの活動を観察してください。 ・子どもの書き込みの順序を記録してください。
(感想や意見など)	

授業分析の視点・分析細目・役割分担等の提示用様式(例)

1 分析の視点 ※ 授業全体の実証の視点をまとめて書きましょう。
2 分析細目 ※ 強調する実証事項を細分化して具体的に書きましょう。
3 役割分担 ○全体観察 ○教師の支援と子どもの反応 ○記録(カメラ・ビデオ・録音機器 等) ○分析対象の子ども ①○○ ○○ (○○先生) ○○ ○○ (○○先生) ② ・ 同上 ・ ※ 考え方や行動の傾向の違いを中心に、できるだけ多くの分析対象の子どもを抽出するようにしましょう。

校内研究についての問い合わせは、研究支援課へ(TEL 092-822-2876)

授業づくり等に関して研修を深めたい時は、下記を御利用ください。



授業力向上支援センター(2F)
教育に関する書籍や視聴覚教材、学習指導案、授業ビデオ等を置いております。

授業づくり等Q&A
指導主事等が、研究の進め方や授業づくり等の御相談をお受けします。





みんなですすめよう 校内研究

ふかめよう

ここで述べる「校内研究」とは、校内における主題研究のことであり、仮説演繹的方法で進められる研究をさしています。校内研究は、教育課題の解決を図るとともに、学校の組織を活性化し、教師一人一人の指導力量を高めます。

そして、このような組織的な研究の積み上げが、子どもの生きる力の育成につながります。

校内研究で、学校が高まり、教師が高まり、子どもが高まります

教師が互いに切磋琢磨し学び合う中で、組織的・協働的・創造的な関係ははぐくまれ、より学校が活性化します。



授業への見方・考え方が深まり、生徒指導への考え方・かかわり方が高まり、より自信をもって指導することができます。

実践研究を生かした授業改善の積み上げによって、子どもに生きる力を身に付けさせることができます。



校内研究をみんなですすめ、ふかめるために

研究組織づくり
研究計画づくり

研究主題の設定

研究仮説の設定

研究構想の確立

① 研究主題，研究仮説の設定には十分な時間をとり，みんなで作っていますか？

② 研究の構想は，共通理解を図りながら，みんなで作っていますか？

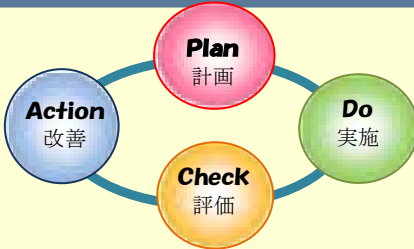
③ 全体やグループで検討した指導案で実証授業をしていますか？

④ 教師一人一人が役割をもって，実証授業の観察・分析を行っていますか？

⑤ 協議会等では，みんなで内容の深まりや手だての有効性を協議していますか？

⑥ みんなで子どもの変容や高まりをもとに，研究のまとめをしていますか？

実証授業



研究のまとめ

自校の校内研究の進め方・深め方を診断してみましょう



校内研究をすすめる手順

① 協働的・機能的な研究組織をつくります

子どもの生きる力をはぐくみ、全教師の指導力量の向上につながる校内研究にするために、機能的・協働的な研究組織をつくります。

そのためには、「全員参加」「一人一役」「共通理解」「部の工夫と連携」が大切です。組織づくりの成否が研究の成否と言っても過言ではありません。

② 研究の見通しがもてる研究計画をつくります

研究の長期的・短期的な見通しをもち、同一步調で研究活動に取り組むために、2～3年等の長期計画と、1年間の年次予定表をつくります。

そのためには、全体計画や各部の活動細案を示して研究を進めるとともに、年次ごとに「構想・実践・まとめ」を見直していくことが大切です。研究計画上の問題点には計画の変更も含めて柔軟に対応しましょう。

③ 研究の方向を明確にした研究主題を設定します

子どもの生きる力につながる確かな実践研究にするために、子どもの実態や発達特性、園・学校の教育目標、教科・領域の目標や特質等を踏まえ、課題性・明確性・実践性のある研究主題を設定します。

そのためには、研究主題の意義を明らかにすることはもちろんのこと、「要因的な面」「プロセス的な面」「側面的な面」等から研究主題を分析し、研究の内容や方向を明確にすることが大切です。 **ポイント1**へ

<研究主題の内容>

- ・研究の主題 — めざす子ども像、教科・領域の時間的特質 等
- ・研究の副主題 — 強調する指導法、教科・領域等の関連 等

<主題設定の理由の視点>

- ◎児童生徒の実態・発達特性
- ◎園・学校の教育目標
- ◎教科・領域の目標や特質
- これからの教育の動向
- 地域や社会の要請
- 研究の歩みと指導の反省 等

④ 研究の結果を想定した研究仮説を設定します

設定した主題に迫る有効な実践研究にするために、下の3点から研究仮説を設定します。

そのためには、先行研究や文献・調査資料、これまでの校内研究の成果をもとに、客観性のある研究結果を予測することが大切です。また、研究仮説は、研究の深化にあわせて見直しをすることも大切です。

<研究仮説に含まれる三つの要素>

- ①研究領域の限定(教科等、活動の場)
- ②研究の重点(強調したい実践内容)
- ③研究の結果(めざす子ども像等)

⑤ 研究の内容を具体化した研究構想を立てます

主題や仮説を踏まえ、仮説演繹的に実践研究を行うために、研究の内容を具体化した研究構想を立てます。そのためには、授業を構成する「内容」「過程」「手だて」等にかかわる構想を立てることが大切です。また、これらの関係を研究構想図に示すと研究の全体像がとらえやすくなります。 **ポイント2**へ

⑥ 研究の仮説を検証する実証授業を積み上げます

具体的に構想した「内容」「過程」「手だて」等が一人一人の子どもに有効かどうかを検証するために、授業分析の視点と分析細目を確認して実証授業をします。

そのためには、分析の視点・分担や観察記録用紙等を工夫して授業を観察・記録し、多面的に授業データを収集することが大切です。 **ポイント3**へ

⑦ 研究の実践を振り返り研究のまとめをします

取り組んできた研究の成果とこれからの研究課題を明確にするために、子どもの変容や高まりを振り返り、研究の構想であげた「内容」「過程」「手だて」等の視点から研究のまとめをします。

そのためには、年次ごとの実践資料や数値比較等、研究にかかわる多面的・長期的な実証データをもとに全教師でまとめることが大切です。

校内研究をふかめるポイント

ポイント1 研究主題を分析することが大切です。研究主題を分析し、副主題をいろいろな観点から検討します。そうすることで、授業実践に具体化しやすくなります。

〈主題分析の観点と授業への具体化〉

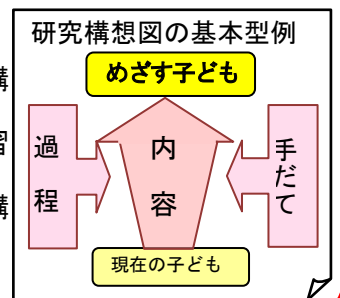
分析は「要因的な面」「プロセス的な面」「側面的な面」等から行います。

- ◇ 例えば、算数科において「思考する力」を要因的な面から分析すると「演繹的な考え方」「帰納的な考え方」「類推的な考え方」となります。授業に具体化すると、それぞれの考えがおう盛に働くような学習活動を仕組むことができます。
- ◇ 例えば、道徳において「よりよい生き方を追求する力」をプロセス的な面から分析すると「自分を振り返る力」「他者を押し量る力」「自他を調和させる力」となります。授業に具体化すると「自己を振り返る活動」「他者を押し量る活動」「自他を調和させる活動」を順次、学習活動に位置付けることとなります。

ポイント2 研究構想は、授業を構成する「内容」「過程」「手だて」等の観点から構想することが大切です。また、研究仮説との関連から研究構想図を作成すると、研究の全体像がとらえやすくなります。

〈具体的構想の観点〉

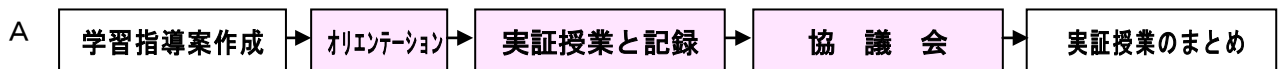
- ・ 内容にかかわる構想…どんな方向から素材を教材化するか、どんな視点から単元等を構成するか、どんな視点から内容を追究するか 等
- ・ 過程にかかわる構想…どんな学習活動を強調するか、どんな活動を連続発展させて学習過程を構築するか 等
- ・ 手だてにかかわる構想…どんな具体的な手だて（動作的、映像的、言語的なもの等）を講じるか、どんな子どもへのかかわりや場の設定をするか 等
- ・ その他にかかわる構想…年間指導計画、帯タイム指導、家庭との連携 等



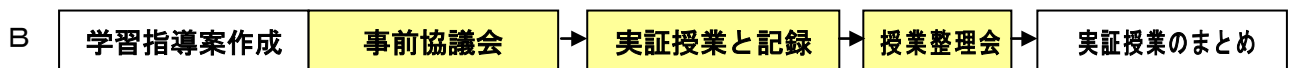
ポイント3 実証授業は、授業仮説に対して子どもの変容とかかわらせながら指導法の有効性を実証するものです。下の3点に示すような実証授業の在り方が大切です。

① 実証授業を中心に研修会の進め方を工夫します。

各学校の実証授業は、一般的に下記の2つのタイプで進められています。



Aタイプは、授業者や学年部、教科部が中心となって授業づくりを行い、観察者はオリエンテーションで授業を観る視点を共通理解し、授業分析に臨みます。授業後の協議会において、仮説の実証性や指導法の有効性、さらに、今後の授業の改善点等を協議するなど、授業後の協議会に重点を置いた進め方です。



Bタイプは、事前協議会において、授業者を中心に全体で指導案を練り上げるとともに、検証計画を立てることで、全員の参画意識を高め、代表者が授業を行います。授業後の整理会は、それぞれの観察者が見取った分析結果の報告が中心となります。つまり、事前協議会での授業づくりに重点を置いた進め方です。

多くの学校において、Aタイプで実証授業が進められています。全員が授業づくりに参加し、共通理解のもと実証授業を進めるBタイプは、授業者の負担も少なく、より協働的な取組を生み出します。指導案が事前に検討されることで子どもたちにとっても練り上げられた学習となります。今後は、Bタイプの進め方にも取り組んでいきましょう。

② 授業分析の視点と分析細目を明確にして、実証授業を行います。

授業分析の視点は、単位時間（45～50分）を通した授業仮説のことです。分析細目は、その中で強調点として実証したいことを具体的に示したもので、2～4つの細目を設定します。

分析細目の表現の仕方として、

- ・（方法）させたことは（内容）を明らかにする上で有効であったか
- ・（方法）させたことは（内容）の考えをつくる上で有効であったか 等が考えられます。

③ 全員が役割をもつよう実証授業の分担を工夫します。

実証授業を多様な面から分析し、指導法の有効性を明らかにします。研究をより客観的にとらえ、一人一人の子どもを大切にするためにも、全員が分担して観察・分析にあたるのが大切です。例えば、全体観察、教師の手だてと子どもの反応、分析対象の子どもたちの観察、ビデオ記録・録音等を分担します。

分析対象には考え方や行動の傾向の違い等から、できるだけ多くの子どもたちをあげると、実証がより確かなものとなるでしょう。